



昼食後、宿泊先のホテル驛都金陵大酒店でチェックインした。このホテルは五星級である。昨年が開業したそうで新しいホテルである。入り口には我々の歓迎をする案内版が入り口にあった。市政府が契約しているホテルであるとのこと。部屋に入るとかなり豪華である。ビジネス向けの設計となっている。フロントで宿泊料金を調べたら498元/泊と書いてあったが、部屋で料金表をみたら、なんと980元と書いてあった。これもいつもの中国方式である。

塩城市博物館、経済技術開発区、環保産業園管理委員会

その後、見本会長と私は、市政府が用意したマイクロバスで塩城市 博物館、経済技術開発区、環保産業園管理委員会を訪問したが、驚いたことに入り口に必ず「歓迎関西日中平和友好会」の電子掲示案内が表示されていたこと、また環保産業園管理委員会では玄関で花束を頂いたことであった。

塩城市博物館では、塩城市の過去・現在・将来がそれぞれ絵、人形、写真などで掲示されており、市の名前の通り塩田があり、塩を生産していた町（昔は村）であった。2003年に対外開放し、現在の発展があり、外資企業を誘致して、外貨を稼いでいる。

塩城市の人口は811万人と大連全体の人口よりも多い。市内では80万人程度であることから人口密度はかなり低い。

経済技術開発区では外資企業が多く、国内企業の誘致は少ない。外資企業では韓国、欧州、インド、米国の企業が進出している。

日本企業は三菱重工が風力発電装置、富士重工がゴミ収集車の生産技術で提携しているようだ。

中でも韓国のKIA（起亜汽車）自動車会社が、ここに進出し40万台/年の生産能力をもった工場があり、その下請け企業も多く進出している。この工場の正門で停車し、李春暉経済開発区招商四局局長から説明を受け、資料を頂いた。環保産業園管理委員会でも、顧碩環保産業園管理委員会副主任他数名が出迎えて頂いて、博物館と同じくビデオで内容を紹介して頂いた。驚いたことはこの建物を建設中に地中から6千年前の鯨の遺骨が出てきたということで、その遺骨の頭骸骨の一部を飾っている。触ってみると少し臭い。他の骨はどうしたのか聞くと、建設作業員が持ち帰ったようで不明らしい。昔は、この地域は海中にあったことが伺えた。顧碩氏はこの管理を任されており、今は厳しいが二年後には素晴らしい地域にさせる責任を持っていることを趙寧主任から聞いた。

